

皆が危惧した理科実験ショービジネス もみ子先生がまた種は芽を出して…



↑ 氷見市海浜植物園で行っている「もみ子先生の実験教室」の様子(この時は、入浴剤を使ったペットボトルロケット)。毎回20～30名の子どもが、県内各地からやってくる。詳しくはDestinのホームページで。



「東京のテレビ番組2つからオファーがありました。1つは私の方から断り、もう1つは企画の相談中に先方から断ってきた」という紅子先生。

profile

所在地 氷見市本町7-17
代表者 池田 紅子
資本金 個人営業(法人化の予定)
従業員 0名
事業 学習塾、理科実験に基づく体験型学習塾の運営、および出張理科実験ショーの開催
TEL 0766-30-2327
URL <http://www.destin.jp/>



「理科実験のエンターティナーになりたい」

この物語の主人公・池田紅子さんがそう思ったのは、今から8年ほど前。大手ソフトウェア会社を辞めて、氷見にUターンしてきた頃のことだ。

「でんじろう先生」で名を馳せている米村傳治郎氏は、当時まだテレビには出ておらず、実験エンターティナーといっても雲をつかむようなもの。そこでまず池田さんは、「理科の先生」の経歴が書けるようにと、富山県立大学生物工学科で実験助手を務め、後には高校教員となり情報処理の授業を受け持った。

ある時、富山県庁のホームページを閲覧していて、たまたま「とやま起業未来塾」の紹介コーナーを開いた。その説



← 当支援センターの専門家派遣制度を活用して(21年度)、ホームページ制作の専門家の指導を受けて作成したDestinのホームページ。再び同制度を活用して、23年度末に一部リニューアルも実施した。

→ 平成23年秋に行われた第7回FITネット商談会に出展した際の、ブースでのプレゼンテーションの様子。こうしたジャンルの出展は珍しく、来場者には人気があった。



明には「創業の夢をかなえるための経営塾」とあるではないか。さっそく塾の運営主体である当機構に連絡。時は平成21年新春のこと。高校には3月いっぱいでの退職願を出し、新年度から、とやま起業未来塾で学ぼうと期待に胸を膨らませていた。

未来塾講師のアドバイスに従って…

未来塾に入って、講師や塾生に実験ショーを見せると、皆口々にいった。「もみ子さん、おもしろ〜い。でもそれ、富山で商売になる? 電力会社の実験ラボは無料だよ」と。

それでも本人は夢を高く掲げ続けた。学習塾を営むかわら、実験ネタを仕入れるために理科教員経験者を訪ね、教えを仰いだ。ある御仁は「子どもの理科離れが進む今、意義がある」と全面的に協力してくれた。

塾の修了時、主任講師は「地元で顔を売ることが先決」とアドバイス。池田さんはさっそく、地元のケーブルテレビに出向いて「とやま起業未来塾の卒業生」と自己紹介した後、おもしろ理科実験ショーの番組プランを滔々と語ったのだ。

会ったばかりの女性がいきなり、実験番組を提案してきたのだから、局の担当者は驚いた。ただ、おもしろそうだったので「試しに1回やってみよう」と提案。後日、収録していた時、別の番組のために局に来ていた新聞記者の目にとまり、“女でんじろうの卵が氷見にいた”と記事になったのだ。

これを見て、氷見市海浜植物園での理科実験ショーのオファーが舞い込み、それがまたテレビで取材されて「もみ子先生のおもしろ実験」は徐々に知られ、小学校や公民館のイベントに招かれるように。平成22年度には氷見市で開催された富山県児童クラブ大会で、小学生・保護者・教員ら約700人を前に実験ショーを行った。そして、大会に参加していた氷見市の職員と知遇を得たことを縁に、翌年度には市内の保育所・小学校での実験ショーを行うようになった。また同じく大会に参加していた県教育委員



↑ 幼・保育園児(年少・年中・年長)、小学校1・2年生の子を持つ保護者向けに発行されている子育て情報紙「ほっとタイムス」(発行/富山県教育委員会、発行部数7万部)。そこに親子で楽しむ実験ネタのコーナーを持つ(23年度)。

会の広報紙「ほっとタイムス」の編集者からも声をかけられ、紙面に「おもしろ実験」のコーナーを持つようになったのだ。

ビジネスになりつつある理科実験ショー

この間、当支援センターでも池田さんを積極的に支援。21年度には専門家派遣制度を活用してホームページの制作支援を行い、23年度には中小企業支援施策普及員によるフォローと創業・ベンチャー挑戦応援事業の採択による創業時費用の一部を助成した。また秋には、販路開拓支援の一環として第7回FITネット商談会でブースを提供し、実験ショーのPRに努めた。

「まさかここまで来るとは…」と未来塾の講師陣も驚くほどに事業は育ち、「数千円だった月収入が、今は若いOL程度まで増えてきた」(池田さん)という。

さて、女でんじろう・もみ子先生の次なる目標は、「法人化と仲間の実験エンターティナーを育てて、手広くショーをこなすこと。「富山に根を張って、理科好きな子どもを増やしたい」と瞳を輝かせている。